

外来語と和製英語の認識について

坂口班

0309026 坂口 慧

0309009 宇田川 隆之介

調査概要

- 日本で使用されている**外来語**、**和製英語**が、どのように識別されているのか、その傾向を調べる。
- 日本語学基礎演習 1 を履修する学生と、その関係者計25名を対象とした、アンケート形式による調査。

学生 19人(男性13人、女性6人)

その他 6人(男性3人、女性3人)

外来語、和製英語の定義

□**外来語**：他の言語から借用し、自国語と同様に使用するようになった語。

例「テーブル」

「コーヒー」

「スポーツ」

参照元：デジタル大辞泉

URL：http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19910207001/t19910207001.html

外来語、和製英語の定義

□ **和製英語**：日本で英語の単語をつなぎ合わせたり変形させたりして、英語らしく作った語。

例「ゴールイン」
「シナリオライター」
「バックミラー」など。

参照元：デジタル大辞泉

URL：<http://dic.yahoo.co.jp/dsearch?p=%E5%92%8C%E8%A3%BD%E8%8B%B1%E8%AA%9E&stype=0&dtype=0>

仮説① 担当：宇田川

- 普段使用している単語ほど、和製英語の識別正答率が低い。

質問項目

次ページの単語項目について、単語だけを提示した後

- ・使用頻度が「よく使う」「たまに使う」「まったく使わない」のどれであるか
- ・「**外来語**」か「**和製英語**」のどちらと思うか

を質問した。

質問項目

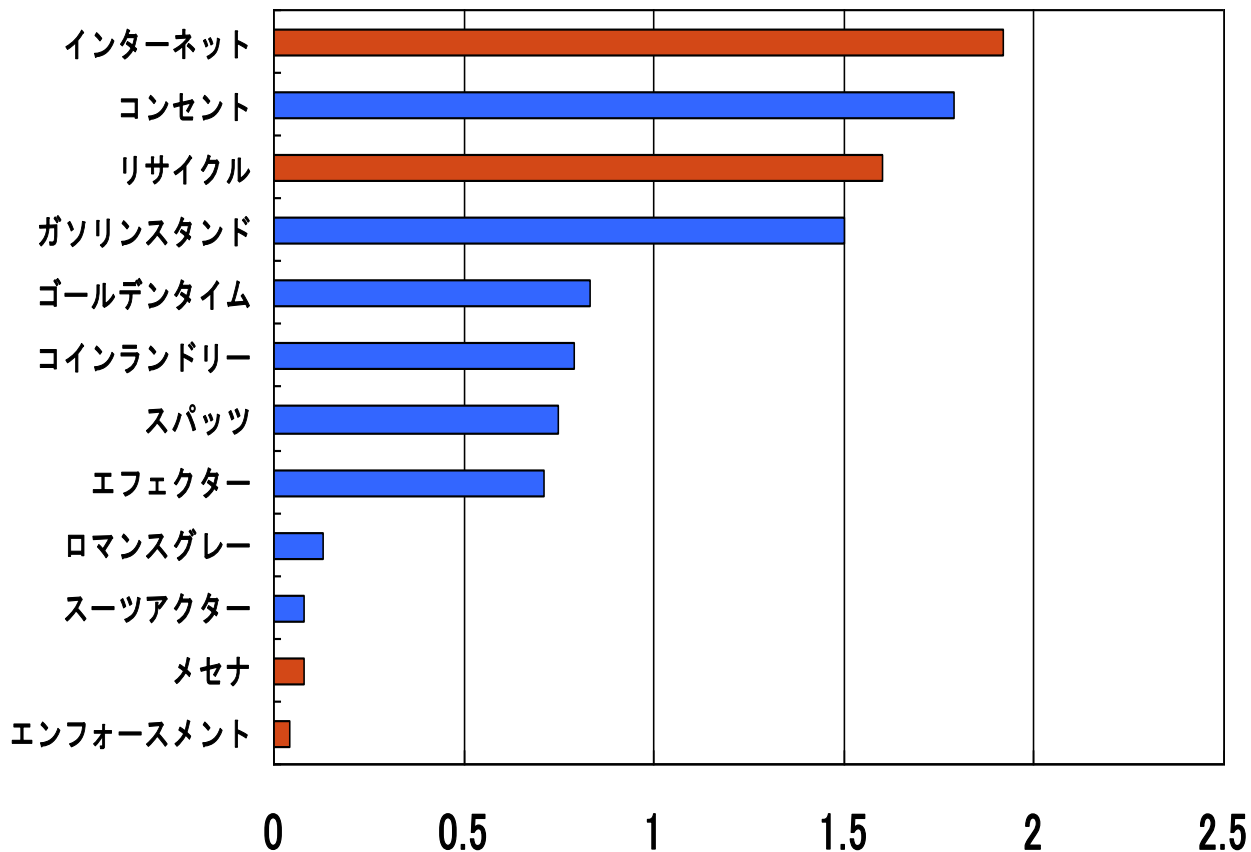
- エンフォースメント
- リサイクル
- インターネット
- メセナ
- スーツアクター
- ゴールデンタイム
- コインランドリー
- ガソリンスタンド
- コンセント
- スパッツ
- ロマンスグレー
- エフェクター

赤い文字の単語が外来語、
青い文字の単語が和製英語です。

参照：例文で読むカタカナ語の辞典
編集：小学館辞典編集部
発行：小学館

日本語になった外来語辞典
編集：飯田隆昭・山本慧一
発行：集英社

図-1 言語の使用頻度

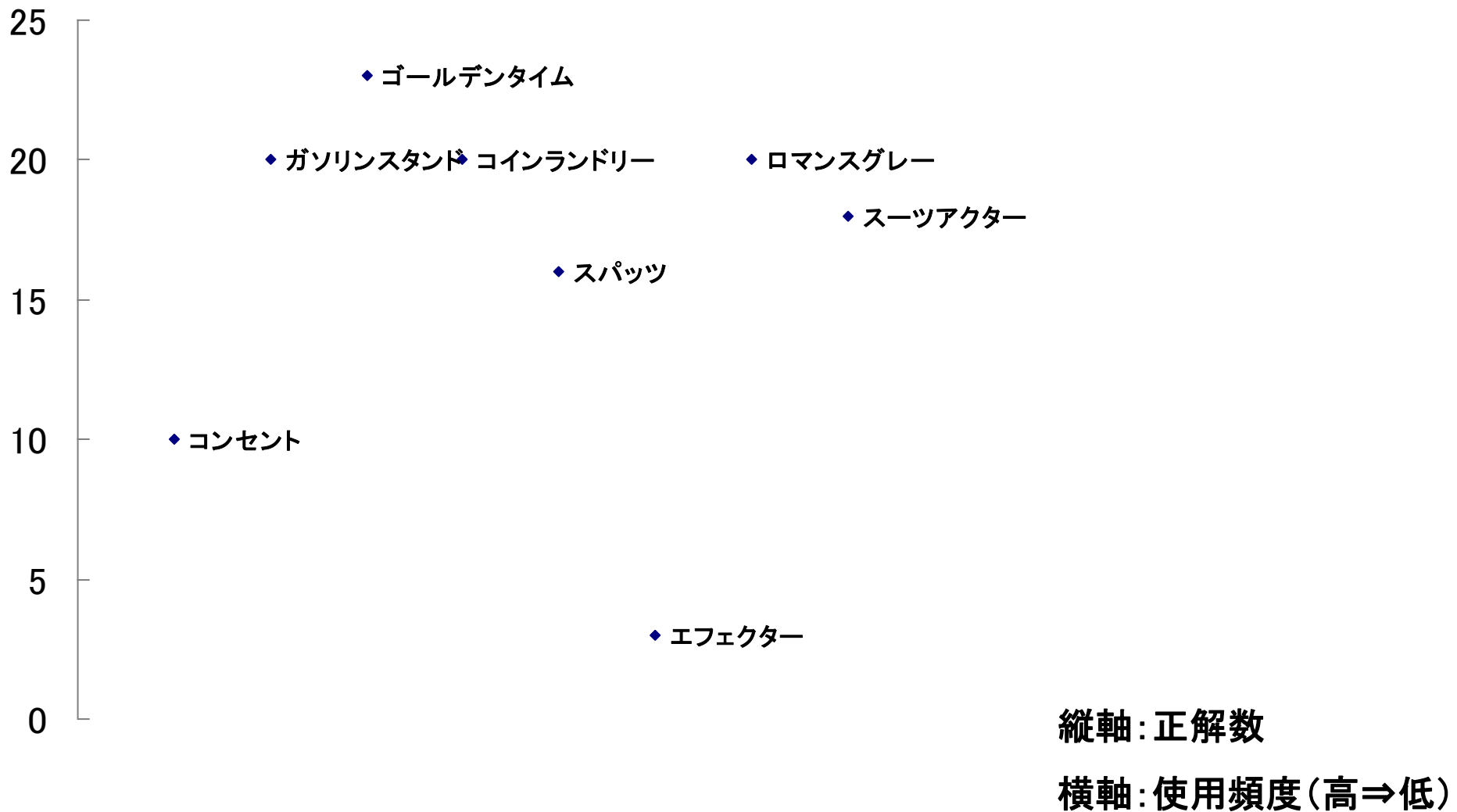


表は言葉の使用頻度を「よく使う」「たまに使う」「まったく使わない」と質問し、それぞれ「2点」「1点」「0点」として計算した場合の使用頻度スコアです。インターネットが最も使用頻度が高く、エンフォースメントが最も低くなっています。インターネット、コンセントリサイクル・・・の順に縦に並んでいます。

赤が外来語で青が和製英語です。

平均点 **0.85**

図-2 和製英語の使用頻度と正解数の散布図



考察

- 仮説①：普段使用している単語ほど、
和製英語の識別正答率が低い。

図2の和製英語の使用頻度と正解数の散布図から、「普段使う**和製英語**」は「普段使わない**和製英語**」に比べ、「**外来語**」であるという間違った認識をされやすい傾向にあるとわかった。

→これは、使用頻度が高い言葉ほど、普段意識して使用しなくなる為に、単純な「カタカナ＝外国の言葉」といった思考に陥るためではないだろうか。

逆に、「普段使わない」言葉ほど、使用する際に言葉を意識する為、外来語か**和製英語**かを見分けやすくなるのではないか。

仮説② 担当：坂口

- 視聴するテレビ番組の種類によって、**外来語**と**和製英語**の区別においての認識に差がある。

例 NHKをよく見る → 正答率が高い
ニュースをよく見る → 正答率が高い
クイズ番組をよく見る → 正答率が高い

質問項目

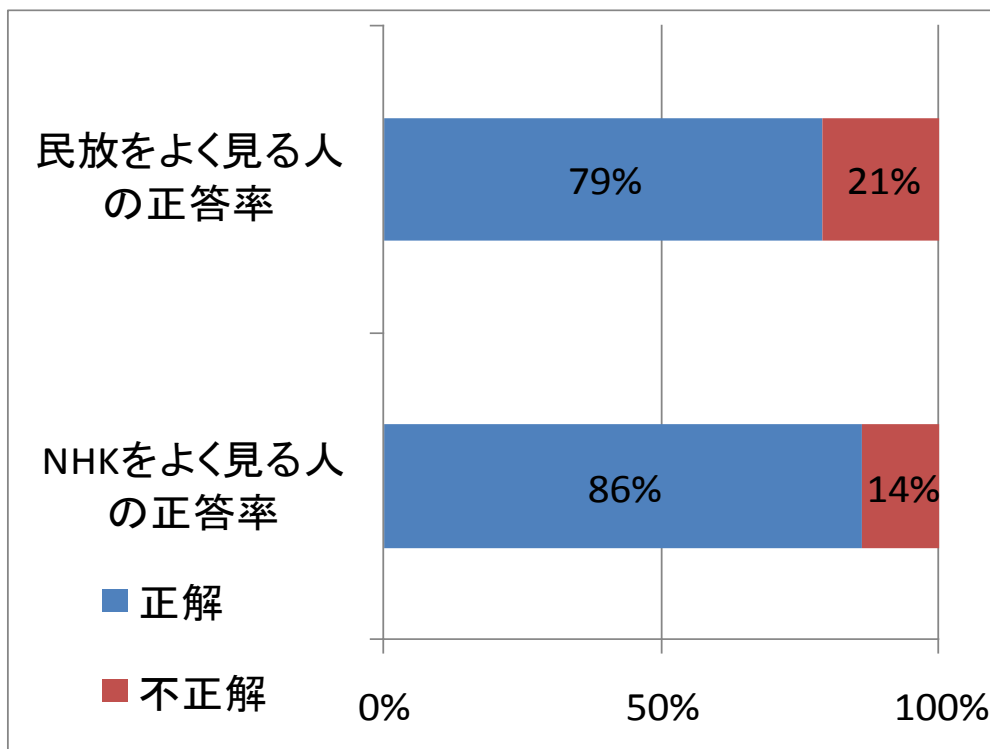
- 『NHKとそれ以外の番組ではどちらをより多くご覧になりますか？』
という質問で、NHKと民放との視聴傾向の差を調査した。

質問項目

- どちらを答えた場合にも、以下の
「ニュース番組」「スポーツ関係の番組」
「教育番組」「ドラマ」「クイズ番組」
「ドキュメンタリー」「バラエティ番組」
「その他」

の内、よく視聴する番組を2つまで記入してもらい、番組毎の視聴傾向を調査した。

図-4



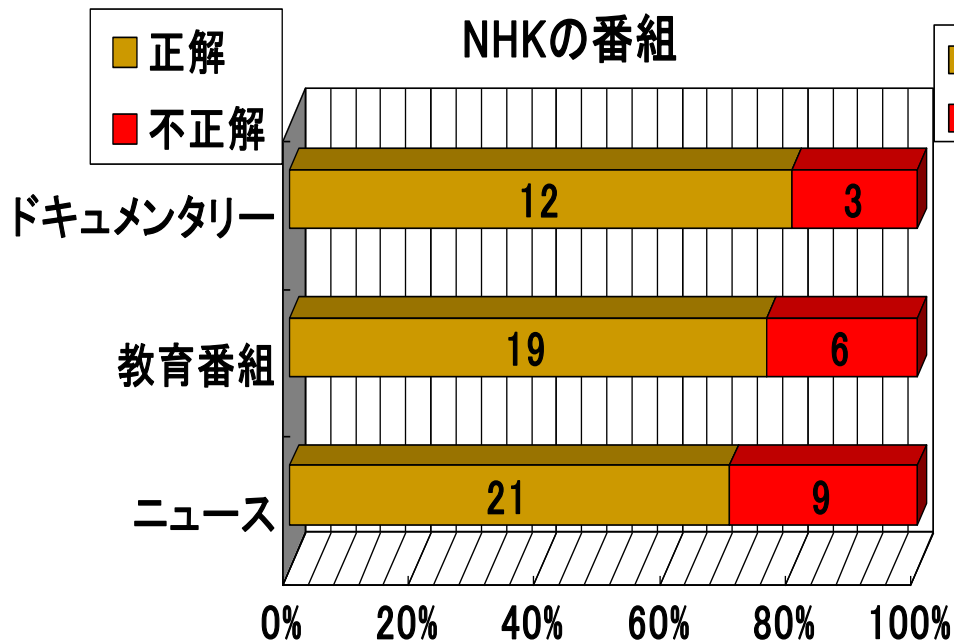
正解 … 213問中 44問
不正解 … 213問中 169問

正解 … 36問中 31問
不正解 … 36問中 5問

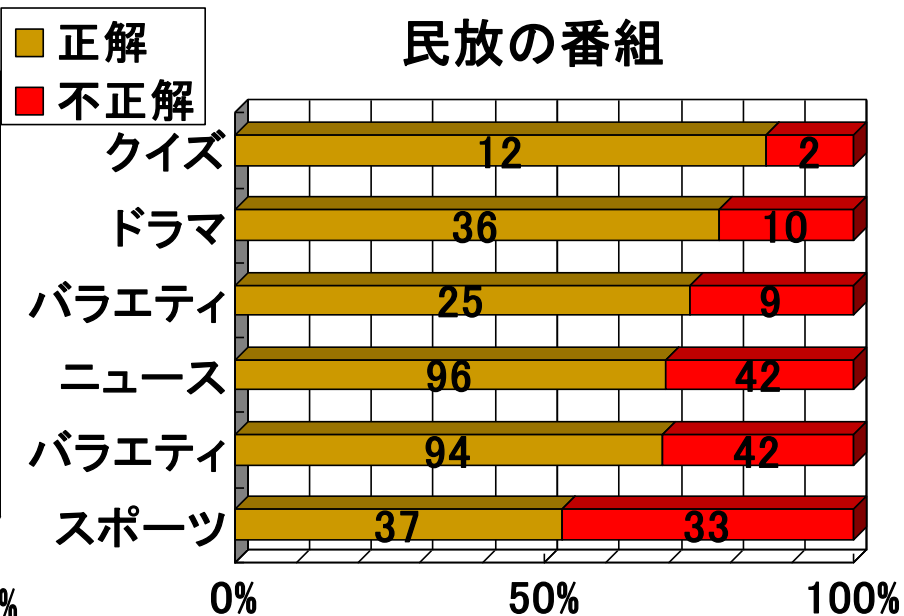
グラフは、NHKと民放の視聴者では、どちらが正答率が高いのかを表したグラフです。

NHK(3人)がと民放(22人)では度数にかなりの違いがありますが、割合に注目すると、NHKを中心に見ている人のほうが正答率が高いことがわかります。分かりやすくするために無回答を除いています。

図-5



ドキュメンタリー	15問中12問	80%
教育番組	25問中19問	76%
ニュース	30問中21問	70%



クイズ	14問中12問	87%
ドラマ	46問中36問	78%
バラエティ	34問中25問	74%
ニュース	138問中96問	70%
バラエティ	136問中94問	69%
スポーツ	70問中37問	53%

考察

- 仮説②：視聴するテレビ番組の種類によって、**外来語**と**和製英語**の区別における認識に差がある。

NHKと民放では、NHKを中心にしている人のほうが、わずかだが正答率が高いように思えた。また、民放視聴群においてはクイズ番組を選択した回答者がもっとも正解率が高く、スポーツを選んだ回答者に正答率が低い傾向が見られた。

→NHKの特にニュース番組では、民放の番組に比べ、**外来語**や**和製英語**を正しく使い分ける傾向がある(「ナイター」を「ナイトゲーム」と表現するなど)ので、本来の意味と違う使われ方をする**和製英語**などを聞いた際に違和感を感じ、**外来語**と**和製英語**を区別しやすいのではないだろうか。

結論

- 今回の調査では仮説通りの結果になるケースが多かったが、どれもわずかな差異ばかりだったので信憑性は薄いかもしれない。

特に、アンケートの製作段階での単語の選別（使用頻度の予想等）は、班員の主観によるものが多かった為、より多くの単語を調べるとさらに明確な分析ができたのではないかと考えられる。

次に同じような機会が与えられた場合、より正確な調査ができるようにしたい。

参考文献

- **例文で読むカタカナ語の辞典**

編集：小学館辞典編集部

発行：小学館

- **日本語になった外来語辞典**

編集：飯田隆昭・山本慧一

発行：集英社

- **「国語に関する世論調査」**

平成19年度文化庁

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/h19/kekka.html

- **デジタル大辞泉**

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19910207001/t19910207001.html